

# 年表

1835 武蔵国多摩郡石田村に  
↓ 農家の間に生れる。  
1840 母 恵津が結婚で亡くなる。  
↓  
1845 江戸上野の「いとう松坂屋  
↓ 呉服店」に奉公に行く。  
1859 天然理心流に正式入門。  
↓ 天然理心流の近藤勇と出会った  
とされる。  
1863 浪士組・京都残留派と江戸  
↓ 帰還派に分裂後、消滅。  
8月18日の政変 御所の警備  
↓ に出勤。  
1864 池田屋事件。京都三条木屋町  
↓ の旅館・池田屋に潜伏して  
いた長州藩・土佐藩などの  
尊皇攘夷派を新選組が  
↓ 隊士募集のため江戸へ向かう。  
1868 旧幕府軍・箱館・五稜郭へ  
↓ 入城する。  
1869 一本木閘門付近で土方歳三  
↓ 戦死。

土方歳三年表

# 土方歳三のプロフィール

生年月日 天保6年 5月5日  
<1835年 5月31日>  
出生地 武蔵野国多摩郡  
時代 江戸時代末期  
~ 明治初期  
家紋 左三ッ巴  
幕末期の幕臣 新選組 副長  
別名 義豊(諱) 内藤(受領名)  
算入(世襲名)  
父 母 父:土方義諱  
母:恵津



左三ッ巴

土方歳三 - wikipedia

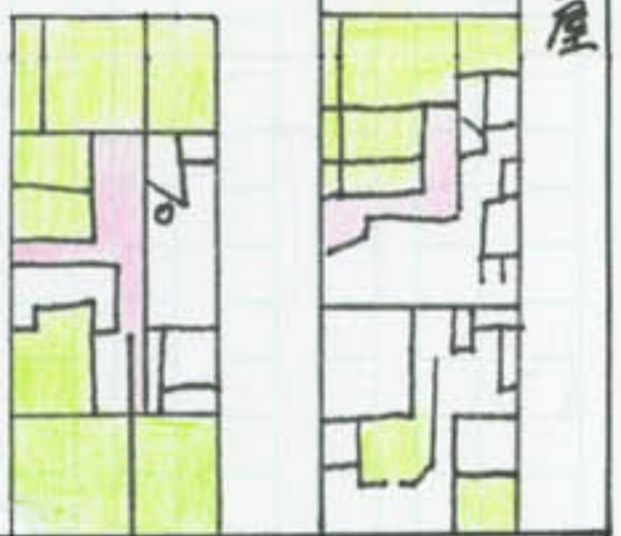
# 土方歳三

発行日 8月15日  
発行者 優海山 中B

文久三年に起きた八月十  
八日の政変後、士生浪士  
組の活躍が認められて新  
選組が発足。その後、新  
見鏡が切腹。芹沢鴨も土  
方うによると見られる暗  
殺で横死し、権力を握っ  
た近藤が局長となった。  
土方は副長の地位に就き  
近藤の右腕として京都の  
治安維持等に当たった。  
新選組は副長助勤、監察  
など職務ごとに系統的な  
組織作りがなされ、頂点に  
局長であるが、実際の指  
揮命令は副長の土方から  
発せたとされる。

元治元年六月五日の池田  
屋事件の際は、半隊を率  
いて長州藩士・土佐藩士  
らが頻りに出入りしてい  
た四国屋を探索して回っ  
たがこちらには誰もいな  
かった。すぐさま池田屋の  
応接にかけつけたが、た  
だちに突入せず池田屋の  
周りを回った。池田屋事  
件の恩賞は破格のものとな  
り、天下に新選組の勇  
名が轟いた。さらに幕府  
から近藤を専ら上席、隊  
士を専らとする内示があ  
ったが、その時は実現に  
は至らなかった。

## 見取り図



## 鬼の副長

新選組は反幕府勢力を取  
り締まるための組織だっ  
たが勝士たちは一般庶民  
で構成されており、なか  
には町の乱暴者のような  
人物もいた。そこで、新  
選組の隊規として厳しい  
規律を定めた。そして土  
方歳三は、その中でも最も  
厳格な規律を定めた。そ  
の厳格な規律は、新選組  
の士気を支え、彼らを  
「鬼の副長」と呼ばれる  
までにさせた。

## 箱館戦争

箱館戦争(慶応四年/明  
治元年・明治二年)は、  
戊辰戦争の戦場の一つで、  
新政府軍と旧幕府軍との  
最後の戦いである。旧幕  
府軍の本拠地が蝦夷地だ  
ったことから「五稜郭の  
戦い」とも呼ばれる。こ  
の戦いの最中に千支が成  
り、土方歳三は「鬼の副  
長」として活躍した。

## 交戦勢力

新政府軍	蝦夷共和国
(新政府軍)	(旧幕府軍)
指導者・指揮官	
清水谷公孝	榎本武揚
(青森口総督)	(総裁)
山田顕義	大島圭介
(海軍参謀)	(海軍奉行)
黒田清隆	荒井郁久助
(陸軍参謀)	(海軍奉行)
増田虎次助	土方歳三
(海軍参謀)	(海軍奉行)
約九千五百	約三千五百
軍艦六	軍艦五

## 編集後記

新選組は元々好きで、ど  
んな生涯を終えたのか一  
番気になった。土方歳三を  
新聞にかきました。池田  
屋事件や箱館戦争の事を  
深く知れてよかったです。  
次、調べる時は他に土方  
歳三や新選組の活躍した  
出来事をもっと調べて、  
まとめたいです。

## 新選組/新撰組

両方の表記を  
使っている。  
新選組は反幕府勢力を取  
り締まるための組織だっ  
たが勝士たちは一般庶民  
で構成されており、なか  
には町の乱暴者のような  
人物もいた。そこで、新  
選組の隊規として厳しい  
規律を定めた。そして土  
方歳三は、その中でも最も  
厳格な規律を定めた。そ  
の厳格な規律は、新選組  
の士気を支え、彼らを  
「鬼の副長」と呼ばれる  
までにさせた。

戦死	戦死
(約三百)	(約七)
沈没	沈没
(軍艦二)	(軍艦二)
座礁	座礁
(軍艦三)	(軍艦三)
拿捕	拿捕
(軍艦二)	(軍艦二)